

# 宮島達男の視点

ちゃんとほめてあげる。社会の厳しさも教える。

## 卒展は最後の授業

### まず感動

#### 一買上げの判断基準について

まず感動ですね。びっくりしたりとか、わあっとインパクトがあったり、とにかく自分の心が動かされるっていう、そういうことでしようね。そこが一番大きいです。そうでないと表現としては難しいと思うので。

で、そのあとで、感動するものがたくさんあったとすると、感動の度合いがどのくらい強いのか。それと、同じように感動したんだけど、こっちはこういう意味を持っている、こっちはこういう考え方をしている、そういうバランスでどちらかを選んだりするわけですよね。でも一番最初に優先する

は感動だと思いますね。すごくシンプルですけどね。

一選考委員の間で意見が違うことはあるんでしょうか？

もちろん。ここ3、4年やってるけれども、意見の食い違いっていうのはいつもありますよね。そのときにはだいたい話し合って決めますね。

たとえば、いろんな人たちがいろんな視点で見ているので、だからこの絵はこういう視点で見るところをうに解釈できる、また、こっちの作品ではこういう問題を扱ってるけれども、こっちの作品ではこう。

で、あがってくる作品というのは、意見は違ってるけれども心を動かすっていう基準は満たしていることが多い

んですね。だからその中の優劣をつけるっていう話になってくるので、だいたい話し合って、なるほどなってみんなが納得できるようなところになります。

一学長の意見だから重いということもなく？

ないです。審査員はみんなそれぞれの意見をしっかりと持っている人たちなので、その中でやっています。それでどうしてもらっているときは学長とか、そういう人がバランスをとっていくんだと思います。ただ今までそういうケースはないですね。みんな話し合って、納得して、みんなで合意して、賞を与えてます。

### 買上げは一期一会

#### 一記憶に残る買上げ作品について

そうですね、いろんなことはあるんだけど。特に買上げというか卒展プライズの話をするとね、卒展プライズっていうのは外部の目でいろんなものを判断しようっていうことで、外部からの審査員を招いてやっているんですね、いつも。芸工大的先生はもちろん入るんだけど、それプラス外部からゲストの審査員を呼んでやっています。

で、そうすると何が起こるかっていうと、ずっと見続けている先生たちは、この子は1年生からこんなふうにやってきて、こんなに頑張って、こんなにいい絵ができた、ってそうやって見るでしょう？

でも、外部の人っていうのはその過程をまったく知らないところで作品だけ見るので、一期一会なんですよ。

だから一眼で見る人を捕らえることができるか、ざっき言った感動とかパワーとかインパクトとかそういうものがある作品をピックアップするから、意外とあまり成績が良くない子が買上げになったりしたことがあります。それはちょっと学部の先生たちも愕然、みたいな。

一それはもしかして工芸科のバイク (Rolly-Free)ですか

・まあね（笑）あれは一番最初のプライズだったし、ある意味象徴的なものだったね。だから良く覚えてるんだと思います。

彼はそこから頑張ったんだと思いますよ。大学院に行って、最終的には自動車メーカーに入って、バイクのデザインをするようになりました。だからたいしたものだよ。



### 一番最後の授業

#### 一買上げの意義とは

みんなもそうだと思うけど、良い意味での競争っていうのは、力が出るよね。それで頑張った人をちゃんと讃めてあげるっていうのは大事なことだよね。

わりといま平等っていうことで、成績も全部Aをつけたりとか、徒競走も1位2位をつけなったりっていうこともあるんだけど、でもやっぱり勉強して研究して、一生懸命やった人をちゃんと讃めてあげるっていうことも必要なのかなと思って、その意味はあると思いますね。

もうひとつはさっき言った外部の目。研究をしていく過程で、一生懸命努力しました、わかって下さい、っていうのは社会に出る上通用しないんだよね。努力をしても正確に認められないことが多い。

だから、ある意味卒業ってのは社会に一步出るその手前で、一番最後の授業と考えてるので、社会の目っていうのはそういう厳しい面をもっているんだよっていうのを身をもって教えてあげるというかね。そういう意味があります。

学校の教育では努力をした分だけちゃんと評価される。でも社会はそうじゃない。成果としてちゃんと人の心をつかめるものを作ったかどうか。人の心をつかむような研究がなされたかどうか。

それは同じ努力をしても、こっちのほうが良い悪いっていうのは絶対でてくるから。そんなことを伝えられたらなと。それが買上げの意義だと思います。

### 卒展プライズとは？

学長、副学長、外部の審査員を加えた選考委員によって選ばれた、卒業制作に贈られる賞のこと。これまで茂木健一郎氏、小山薰堂氏がゲスト審査員として招かれた。そのまま買上げ作品となることもあるが、優秀賞の作品が買上げ候補になる年もあるので、卒展プライズ=買上げ、ではない。

### 真面目にピュアに

#### 一芸工大生の特徴は？

そうですね、美術評論家ではないので言葉でなかなか説明はできないんだけど、芸工大の特徴っていうのは、ピュアなところじゃないかな。変に垢に染まってない、流行に乗ってない、そういうところかな。それは変わらないですね。

みんなやっぱり、ちょっと変わったものであっても、ものすごく真面目にピュアに取り組んでいる、そういう作品に仕上がってますよね。

逆に言うと、今の時代とかをちゃんと勉強してない、とも言えるんだけどね。首都圏の大学のようにそっちの情報がいっぱい入ってきて、そればかり見ていても結局何にもならないんだけどね。

もっと勉強はしてもらいたいと思うんだけど、良い面と悪い面と両方あるんだよね、芸工大の特徴として。ピュアっていうのはとてもいいし、それは将来大きく育っていく素地になるのでとてもいいんですけど、もっといろんなことに興味を持ったりしてもらいたいし、山から下りて街へ遊びに行ってほしい。

アパートと大学の往復で、たまにオーヤマとかでしょ？ 全然情報が偏ってるというか、ドグマになっちゃってる感じがあるので、まあそういう部分がピュアさを生んでるっていうのもあるんだけどね。

2006年買上げ作品 釜屋りえ「女」



### 表現しようという意思

#### 一逆に変わってきていることは？

卒展自体が4年前からここ（大学）に統合されたので、それぞれの学科、学部というのが入れ子状になって、お互いをしっかり見るようにになってきて、交流をとるようになってきて、表現しようっていう意思みたいなものがとてもある、そういう卒業制作になっていまます。

つまり、なにかを伝えようとしているっていうかね。今までだと、自分がやってきた研究みたいなものを、ただ単に勉強しましたって。たとえば保存修復でもそうだし、歴史でもデザインの分野でもそうだったんだけど、自分はこれ勉強しました、はいおしまい。

そうじゃなくて、もっと見る人たちにアピールをしようというような、で、それはね、美術科、日本画とか洋画とか彫刻とか、そういう表現をしていくような人たちと一緒に卒展をやってるからなんだよね。そういうのを見ると、伝えようとする意思みたいなものが強固にあるので、それで見る人たちの心を打つので、そういうものが影響してるんだと思います。

それはとても良い変わり方をしてる。狙い通りなわけですね。卒展をここで同時期にやるっていう意味があると思います。



2007年買上げ作品 花野明奈「踊る身体」

### 買上げで先輩を知る

それともうひとつの買上げの意義っていうのは、学校の中を美術館にする、美術館大学構想っていうのがあって、それで卒業生の作品を展示しています。

そういう買上げで自分たちの先輩がどんなものを作ってきたのかを学生たちが直接見ることができます。その意味もありますよね。

### もっと勉強してほしい

#### 一在学生に向けて

これはもうさつきも言ってるけど、勉強してほしい。知らないことをどんどん自分で勉強してもらいたい。

たとえば今現在、特に近現代の歴史とか、あまり興味を持ってないのかもしれないけど、大事だなと思うことは勉強してほしい。そういうことをすることによって表現の幅とか研究の幅が大きく広がるので。

### 社会のリバウンド

とてもピュアで無垢なんだけど、ピュアすぎてしまうと、社会に出たときにそのリバウンドというか、それがすごくかいんですよ。

たとえば大学とアパートの往復しかしてないけど、先生も優しいし、友達も優しいし、風景も綺麗だし、飯は安いし、いいし、もう天国なんですよ。そこしか見てないと、いざ社会に出たときに、めちゃくちゃ絶望するわけ。

まわりの人たちは悪い人たちばかりだし、なんかして騙そうとしてるし、誰も認めてくれない苦めてくれない。そういう状況のなかで、腐っちゃうんだよね。

なのでなるべく、制作っていうことになったらこういうピュアな環境でそれでいいんだけど、それ以外のところでいろんなことを勉強して、街へ出たり、東京へ出るのもいいし、いろんな情報を自分なりにしっかり勉強していくないと、社会に出たときにリバウンドが大変です。



宮島 達男  
Miyajima Tatsuo

1957年東京都生まれ  
東京藝術大学修士課程卒業  
東北藝術工科大学副学長、デザイン工学部長



2006年買上げ作品 速藤勇太「Rolly-Free」

# 松本哲男の視点

買い上げになるな。うらやむよりも、悔しがれ。

## 買い上げの基準とは

驚きだね。ぱっと見たときに、はつとさせられるような、我々お年寄りが見ても、今まで見たことないようなやつだっていう、それが一番大きい判断基準かもしれない。これは我々じゃあ考えつかないよねっていうようなやつを一番求めてるね。

こっちも夢を買うわけよ。一生懸命みんなに作品を見せてもらって、自分にはできない夢がその中にあらっていのが一番大きいね。

もう直感だよね。たとえば技術的にどうだとか、色彩的にはどうだなんてことは全然関係なし、ただ驚くだけ。漫画を見てわあっと驚くような気持ちで。だからこっちは無の状態にして。

一ぱっと目につく作品というのは他の

審査員の間でも同じものなのですか？

大体同じだね。意外と。これ見たことないよねっていうのが最初の言葉なのかもしれない。だから、既成のものではないってことを求めてるのかな。

どっかの真似だよねとか、どっかで見たことあるよねとか、これはあの先生の真似をやってるねっていうのは最初から外して。その人が下手だけど

オリジナルを持ってるっていうのをすごく大切に考えるね。

## 芸工大生がおかしくなってきた

一卒業制作から見る芸工大生の特徴や変遷については

おかしくなってきたね。今まで見たことないような作品がどんどん出始め

たし、絵っていうのはこうあるべきだっていう概念をどんどん壊してる。すごくいい状態だと思うね。だから、みんな一番生き生きしてきたんじゃないかな。

前、むこう（山形美術館）でやったときなんて、日本画の学生はただ飾ればいいって感じだから、与えられた場所も狭いし、そうすると絵も小さくなる。でも今はみんな違うだろ。少なくともちょっと自由になって、卒業制作展が場を変えて、大成功だったと思う。

それと一番大きいのがね、作品へばかりつくようになったこと。自分の絵、作品の前に自信を持って居るんだよ、意外と。で、説明するんだ。「ここがいいのに、わかるねえのかお前は」っていうような感じで、あの積極性がなかったら、これから社会に出ていった時に、だめなんだよ。そういう

## 夢

夢を持ったやつを評価したい。学校の先生方の評価も大事なものだけど、まったく部外者として考えたときに、夢がある、そういう夢をこの子は叶えるよっていうもの。

そういうのは意外と先生に評価されない。一番劣等生がよくやってくれる。どっかかっていうと。先生から外れたやつが。でもそういうやつが世の中にいるっていうことはとっても大切。人とは違う、既成概念にとらわれないでやってるっていうこと。

## 馬鹿の証明

一学科の先生方と審査員の視点の違いから発掘された生徒にとっては、買い上げの意義はあるのでは

でもそれを完全に信じ込むと馬鹿だって言われる。買い上げされたからって俺はすごいんだって思い込むのはね。馬鹿だっていう証明をもらったと思えばいいんだよ。そのぐらい謙虚でいればいい。

だから、一見機してるけれども、芯にあるものは真面目だっていうこと。僕らも、そういうことを見極めた上での判断。

人の言うことをそのまま呑呑みにしてやってるんじゃないなくて、そういう真面目さじゃなくて、人間本当に真剣に考えたときに、これは要る、これは要らないっていう、本当の姿を発見しようとする、そういう構えのあるやつが相当増えてきてる。

だから、一見機してるけれども、芯にあるものは真面目だっていうこと。僕らも、そういうことを見極めた上での判断。

るじゃない、買い上げになったんだっていう。それをすべて歎賞のごとく思ってやっていくと、世の中そんなに甘くない。

一学生にとっては励みになると思うのですが

なるだろうけど、あんまりそんなことは感じてほしくない。学校で優等賞もらったやつってのは大体だめになるからね。もう確実に悪くなる。最優秀だったやつが一番良くなるかっていうと大間違いで、どっかかっていうと最後から5、6番目にいるやつが良くなる。

悔しさなんだよ。すぐ悔しいっていうか、劣等感の塊でものを作ってる。だからハングリーでなくちゃだめ。「あいつより俺はだめだ」という劣等感の塊で、でもそこで食らいつくつかないかの違い。そうなってくれれ

ばいいんだけど、そのためのひとつの手段だね、買い上げは。

ひとつの勝負だと思えばいいんじゃない。世の中もっと真剣な勝負の場がどんどん出てくるから、みんなも今の20代の勝負でもう終わっちゃう人はだめで、30、40になったときが初めて本当の勝負だと思う。

そういう賞を見てうらやむことも大切だけど、それよりもこんちきしようって思うほうがもっと大切。

作家になるために、自分が評価されないってところから始まる。俺はいつもよりうまいぞってところから始まるんだよね。

こういう賞を見てうらやむことも大切だけど、それよりもこんちきしようって思うほうがもっと大切。

## 劣等感の塊でいい

一ある意味で、選ばれなかつた人にとって意味のあるものなのでは

意味がある。あそこでどうして俺はだめだったんだろうなって。だから選ばれなかつたやつがどう感じるか、みんなが選ばれてすごく悔しいって思うじゃない。その悔しさを持って卒業したほうが得。

## 卒展の歴史

現在、卒展はそれぞれの科の実習棟や本館を使って行われている。このように学内で行うようになったのは2006年2月の卒展からである。それまでの卒展は山形美術館で行われていた。大学から美術館までは遠く、搬入や設置の面から言っても大学で開催するメリットは大きいだろう。

力がついてきた。

昔の「絵だ」っていう概念をどんどん捨てるし、なんか見てこれはすごいよって思うようになつた。大変な違いが出てきてるよ。

きっかけは場所が変わつたせいだろうな。発表の場所がここにひとつにまとまつたってことで。

それと大きいのは1・2・3・4年生ではっきり仕事分担したことだよ。

3年生以下が部屋を大掃除してくれたりなんかして、4年生しっかりやって下さって感じで、自分たちの部屋を提供しなきゃなんないじゃない。でもそれでお互いに刺激しあつてるんだよね、4年生の仕事を見て。

ああいうことっていってるのは、非常に無駄なようだけど、先輩ってことを意識できるとてもいいチャンスになってると思う。先輩のためならつていう気がおきたんだよ。

## 見せる努力

他の科の連中とお互いに刺激しあいながら見られる。同じ場に否が応でも入れられちゃうから。特に工芸なんてのは汚い部屋で、でもそれを「見せる」っていう努力ができるようになつたってのは、これから作家として、プロとしてやっていく上で、一番大切、重要なポイントを勉強してるんじゃないかな。

先生方ってのは違うんだよな。先生ってのは1年2年3年と教えてきて、

いかな。見せ方まで勉強しないと意味ないんだよね。

他人と比較して、自分の作品がどうであるか、大いに赤恥をかくこと、「ああやだな、自分はこんなに下手だったか」っていうのが学生のときから出始めた。それは大変な違いだよ。

## 反逆してやつが面白い

一印象に残っている作品について

奥くて嫌になったのがあったな（2006年買い上げ作品『女』）、あの彫刻作品の。でもそれは賞になつたんだけど。そういうインパクトなんだよな、見たことないっていうか。

今、現実的にみんなはピエンナーレとかそういう展覧会で活躍するわけだし。そうするとね、とにかく自分を持つてること、表現力だからな。自分はこうだって叫んでる作品が良かった。

オートバイ（2006年買い上げ作品『Rolly-Free』）だって科では最低の点数を受けられた。こいつはだめだ、って。逆だよ、こいつは面白いよ。そういう、まったく素人から見て、反逆してやつがすごい面白いと思うんだよ。

先生方ってのは違うんだよな。先生ってのは1年2年3年と教えてきて、

1年のときはデッサンがこうで、2年のときはこうなって、それで成績が成長したよっていうのがあるからさ、この子はものすごい優秀になつたっていうで評価しちゃう。

そうじゃなくて、こういう我々みたいなド素人が見てると、そういうことは全然知らないわけ。出てきてる作品だけで、ああでもないこうでもないって。

そのときに、ものすごく破壊するのがいい。今までの現状を破壊して、そうするところからどんなふうに伸びるんだろうかっていうのが一番ポイントじゃないかな。

世の中っていうのはどんどん変わっていくわけだから、現状に不満を持っているやつが一番いいんだよ。休憩なんか作らなくっていい。

自分の中でふつぶつしてやつをそのまま作つたやつが、それがこれから人と喧嘩しながらどんどん自己主張しながらやってって。そういう喧嘩しちゃうやつを一生懸命見つける。先生とは合わないだろうなあっていうやつ。だから先生たちは文句たらだよ。『なんであんなの選んだんだ』ってもう先生と喧嘩だよ。だから俺たちは「知らんよ。面白いもんねえ」ってまさかすんだけど。



## 意義なんてない！

買い上げの意義なんて言うけど、意義なんてないって言いたい。ただ夢を買ったんだっていうことかな。それも大いなる未完成の夢を。だから完成された作品がトップになるんじゃないなくて、そういうものから外れちゃつたやつをなるべく選ぼうっていう。

そうすると逆に言うと、うちの大学の持つて居る枠を崩すことになるんだよな。先生方のをそっくり真似して描いたようなやつが普通はトップになるんだけど、そういうこと抜きに考える。やっぱりいろいろなやつがいるから面白いんで、そういう可能性を、教育とはまたちょっと違つた目で見るのが買い上げ賞。

あんなものが選ばれてすごく悔しい。

その悔しさを持って卒業したほうが得。

## 一刺激を与えるための？

そう、刺激を与えるためのもの。こんなものも選ばれるんだよっていう。先生方にこういうのも面白いんじゃないって提案してるだけであつてさ。

こいつは優秀だよってことは絶対あり得ない。どっかかっていうと悪くして。良くなるやつないよ。それよりも劣等生のほうが伸びてる。

## 買い上げになるな自分を信じろ

一賞をとつた人たちに向かって油断したらだめだよと言つたりは？

言うんだけどわからない。舞い上げ

ってるから。中にはほんとに天才もいると思うけど、9割方だめになる。

だから若いときはこんなものもらわないほうがいい。評価されないほうがいいよ。ただ自分を信じること。

こんな賞をもらって喜んでるようなやつはだめだよってことを言いたくてやつてるようなものだから。「買い上げになってあいつは失敗した。ざまあみろ」とみんなが言わなきゃ。

眞実はもっと後ろにあって、そのときに一番大切なのは劣等感。誰も頼らないこと。自分を一番信じること。

油断するやつなんて、そういうやつはおだててあげるんだよ。あ、こいつだめになりそうだなって（笑）。世の中そんなもんじゃないから。

## 妥協しない心

自分に妥協しない心ができる賞であつたら素晴らしいと思うんだよね。

これはただ単なるパフォーマンスの夢であつて、それが即作家になれるっていうパスポートじゃないよ。



松本哲男

Matsumoto Tetsuo

1943年福島県生まれ

宇都宮大学教育学部美術科卒業

日本画コース教授を経て、学長に就任

日本美術院同人・理事

